

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は長い伝統の中で、働きながら学ぶ生徒への工業の教育を担ってきた。今後とも、これまで培ってきた伝統と教育活動を生かし、工業関係の施設・設備を有効利用できる総合学科として、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を実践することにより、多様な生徒のニーズに応えつつ、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として地域社会のリーダーになり得る社会人を育成する。

- 1 府民の期待に応え、魅力ある定時制高校として、生徒、保護者、地域住民、府民などに広く開かれた教育活動を実践する。
- 2 定時制高校及び総合学科である本校の特色を生かし、多様な生徒の興味・関心に応じた教育活動を実践する。
- 3 教師と生徒が信頼関係をもち、ふれ合いを深められる生徒指導に努め、教育活動全体をとおして豊かな国際感覚や人権意識を身につけた人権尊重の教育を推進する。
- 4 生徒、保護者、府民の信頼に応えるため教職員自ら意識改革をより一層進め、サービスについても公明正大を期する。

## 2 中期的目標

次の取組みにより、働きながら学ぶ生徒の学力保障と夢の実現を図る。

## 1 キャリア教育のさらなる充実

## (1) 社会人としてのスキルアップをめざす

ア：社会人として基本中の基本である挨拶の励行運動を、登下校時・校内巡視時や各教科指導の中で継続する。

イ：全教科において社会の中で生活し多くの人と関わりを持つという「コミュニケーション能力」・「キャリア教育の視点」を取り入れた授業を実施する。

## (2) キャリア講演会の充実

ウ：外部の人材や先輩等の講演会を開催し、社会人としての職業観・勤労観の育成をより進める。

※学校教育自己評価の「将来の進路や生き方について考える機会がある」を70%以上にする。

## (3) アルバイト経験の充実

エ：就労体験のため、アルバイト斡旋を行い、在学中のアルバイト体験率を向上させ、生徒に自信をつけさせる。

## (4) 進路指導の充実

オ：生徒の就業意識高揚と進路選択力の育成、希望に応じた進路の実現を図り、学校斡旋就職希望者の100%内定をめざす。

カ：卒業時の進路未定率を10%以下に減少させる。

## 2 基礎学力の定着と向上

## (1) 基礎学力の向上

ア：わかる授業を実践するため、ICT機器を利用した授業展開を増やす。

※学校教育自己診断の授業満足度を70%以上にする。

イ：数学や国語の個に応じた反復指導を、徹底したモジュール授業で1学年を中心に行う。また、不登校生徒等にも拡大する。

## (2) 進級・卒業率の上昇

ウ：生徒本人や保護者との連携を密にし、出席率の向上を図る。

エ：卒業率・進級率を前年度比5パーセント以上向上させる。

## 3 自尊感情の向上

## (1) 情操教育の推進

ア：感受性向上を図るため、図書に親しむ環境として図書館利用や書籍等の活用を進める。

(始業前の図書館利用や、職員室内の書籍の貸し出しの増加をめざす)

## (2) 学校生活の充実と活性化

イ：生徒会活動・部活動や校内清掃活動を活発化させ、自校を愛する心の育成を図る。

ウ：HR活動を生徒指導の軸にできるような取組みの充実を図る。

## 4 生徒支援と校内安全体制の確立

## (1) 生徒支援委員会の活性化

ア：教職員全員で生徒情報を把握し、定期的に開催する生徒支援委員会において、教職員間での情報共有を図る。

イ：生徒支援委員会で取り上げた生徒の支援体制を充実させ、必要な場合は関係諸機関と連携を行う。

## (2) 「安全で安心な学校づくり推進事業」の取組みを進め、危機管理委員会でのチェックの充実

ウ：「安全で安心な学校づくり推進事業」の研修成果を活用し、教育課題に対する教職員研修の継続実施とOJTによる教職員の育成を図る。

エ：危機管理委員会を組織し、生徒が安心して生活が送れるよう事前対策・チェックを行う。

## 府立今宮工科高等学校 定時制の課程

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学校生活】</b>  「学校へ行くのが楽しい。」・・・58. 3%  「自分の学級は楽しい。」・・・62. 5%  「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」・・・72. 3%  「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」・・・81. 3%  新入生においては、さまざまな問題を抱えた生徒が多く、義務教育時において、学校生活に定着していない生徒が多く、高等学校生活において、それらの問題に対応するために、生徒の出身校への訪問を行い、情報収集に努めた。また、4月当初には個別に面談、9月には1学期の学校での状況や家庭での生活状況の相互理解のため、保護者を交えた個別懇談を行い、そのつど「生徒生活支援カード」へ記載し、学年団はもちろんのこと、各分掌との連携を図り、教員全体の理解を深めた。また、奨学金制度の説明も、丁寧に行い、生徒が安定した学校生活を送れるよう取り組んでいる。</p> <p><b>【学習指導】</b>  「授業はわかりやすく楽しい。」・・・66. 0%  「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。」・・・74. 2%  「先生は、自分が努力したことを認めてくれる。」・・・72. 6%  「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」・・・39. 4%  4月当初に、「学びなおし授業」を実施し、学習程度の確認や、どのような項目において躓きがあったかを確認し、数学の習熟度別授業の展開にいかした。また、始業前のモジュール授業の開講、授業終了後の個別指導を行い基礎学力の定着を図るとともに、「理解」し、達成することの喜びを感じさせた。しかし、生徒自身が自ら考え、述べる機会は少なく、教員からの知識の伝達が中心の授業となっている。生徒が先生に「質問をしやすい。」という割合が多いことから、対話型の授業展開は定着しつつあると考えられる。</p> <p><b>【生徒指導】</b>  「先生は協力して生徒指導に当たっている。」・・・73. 2%  「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談する。」・・・63. 5%  「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」・・・67. 7%  「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる。」  ・・・69. 4%  「学校生活についての先生の指導は納得できる。」・・・71. 1%  「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」・・・78. 9%  毎日、生徒登校時に教員が当番で校門に立ち、「こんばんは、よく来たな。」の声掛けや生徒一人ひとりの表情を観察し、健康状況や精神状態の把握に努めている。また、休憩時間中の校舎内の巡回指導も生徒指導に役立っている。教員だれでもが生徒からの相談にのれるよう研鑽に努める。</p> <p><b>【進路指導】</b>  「将来の進路や生き方について考える機会がある。」・・・79. 4%  「学校は進路についての情報を知らせてくれる。」・・・77. 6%  卒業後の進路決定に際し、生徒には将来を見据えるため、講演実習会を2回開催、また専門学校等の協力をいただき、将来の職業の選択視野をひろげるべく体験期間を設けている。  本年度の就職実績は学校紹介で12名を数えている。また大学、専門学校進学は大学2名、専門学校2名が決定した。  就職、進学に担任、進路指導係の指導の成果と考えるが、校内全体として、生徒の将来を見据えた指導が必要である。</p>	<p>第1回（6月16日）  （進路指導に関すること）  ・アルバイトを通しての進路指導は良い取り組みだと感じた。  ・専門科の設置・設備を職業と結びつける取組は良いと思う。  ・先日、全日制工科高校の学校説明会があった。工科高校は軒並み定員割れをして苦勞しているようであるが、進路実績は素晴らしいものがある。離職率も低い。ぜひ、工科高校の強みを全日制、定時制共に発揮してもらいたい。  ・会社は女子生徒を今後採用したいと考えている。お願いしたい。  （生徒支援委員会に関すること）  ・支援委員会が積極的に取り組んでいることに敬意を表す。また関係諸機関との連携も積極的に進めていることは非常に良いことだと思う。  ・区役所の担当者をもっと動かしてはどうか。  （授業見学に関すること）  ・専門学校でありながら女子生徒が多いのに驚いた。総合学科ということで合点がいった。定時制高校は地域密着型であることがありがたいし、センターの子どもも指導しやすい。  ・ジュースや菓子を食べる、授業態度の悪い生徒を見かける。授業中のけじめや心構え等 今後の指導に期待する。  ・昨年より授業に出席している生徒が多いのではないかと。</p> <p>第2回（11月15日）  （教務に関すること）  ・定時制は最後の砦であることを改めて感じた。  ・進級させるための工夫がより必要である。例えば入学時のオリエンテーションを充実させることで生徒を理解させられないか。  ・不安定な年齢層である。また、退学率を抑えるためにも、寛大に育ててほしい。  ・中学校においても中一ギャップは非常に深刻である。そこで小学校と中学校の違いをできるだけ段差をなくすよう努めている。中学校の教員が小学校へ指導に行くことで中学校の文化を早い段階から慣らすようにしている。  （保健室に関すること）  ・給食がなくなったことが定時制高校にとって大きな痛手ではないか？食事の時のコミュニケーションは非常に重要だから。また発育状況に大きな影響を与えるように思う。せめて学校においてバランスのある食事を取らせてやりたい。  ・歯科検診における虫歯治療は本人だけの問題ではない。食事らしい食事をしない。菓子を食事代わりにとする。歯を磨くことが習慣になっていない。歯医者へ行くことが経済的にできない。悪循環の堂々巡りになっている。社会保障制度にも関わることにつながり、ただ虫歯の未処置だけに終わらない。  ・データから突き詰めると家庭の貧困や不登校、しつけ等に行き着く。あらゆる観点から生徒を見ていくことでより良い環境づくりを見出していくことが重要である。</p> <p>第3回（3月4日）  （卒業式について）  ・卒業式に参加させていただいたが、生徒の入場から涙があふれた。生徒の今日の日までの頑張りが目に浮かんだ。  ・卒業できたことが、4年間、3年間頑張れたことが、社会人として、次へのステップにつながる。  ・良く続けられたと思う。これも指導して下さった先生方のおかげだと思う。  （若手教員の指導について）  ・勉強することが好きで教員になった先生が、実際の定時制の授業に対応された時の驚きや戸惑いを、生徒と接することを重ねることで乗り越えられている姿が見受けられる。  ・いつでも、生徒に寄り添い指導されている。少人数で授業を展開されているので、いつでもわからない生徒に教えられていることは生徒の成長につながる。  ・新規採用教員が定時制高校で経験を積むことは、教員としての資質の向上に大いに役立つと思う。  ・教員が成長するには、定時制や全日制、支援学校に勤務し研鑽すれば人間として成長し、プロの教員として成長できるのではないかと。  ・授業に対して、鉛筆も持ってこない生徒に対し粘り強く指導し、生徒を飽きさせないように指導できるようになるには、相当な努力が必要であったのでは。  ・今工定に入ると成長させてくれると、子ども家庭センターでも言われている。</p>

## 府立今宮工科高等学校 定時制の課程

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
① キャリア教育のさらなる充実	(1) 社会人としてのスキルアップをめざす (2) キャリア講演会の充実 (3) アルバイト経験の充実 (4) 進路指導の充実	(1) ア：社会人として基本的な生活習慣の基礎である挨拶の励行運動を、登下校時・校内巡視時や各教科指導の中で継続する。 イ：全教科において社会の中で生活し多くの人と関わりを持つという「コミュニケーション能力」・「キャリア教育の視点」を取り入れた授業を実施する。 (2) ウ：外部の人材や先輩等の講演会を開催し、社会人としての職業観・勤労観の育成をより進める。 (3) エ：就労体験のため、アルバイト斡旋を行い、在学中のアルバイト体験率を向上させ、生徒に自信をつけさせる。 (4) オ：生徒の就業意識高揚と進路選択力の育成、希望に応じた進路の実現を図り、学校斡旋就職希望者の100%内定をめざす。 カ：卒業時の進路未定率を10%以下に減少させる。	(1) ア：学校教育自己診断の基本的な生活習慣の確立の満足度を(H27年度68%)70%以上にする。 イ：学校教育自己診断の授業で自分の考えをまとめたり発表に機会がある満足度を(H27年度52%)70%以上にする。 (2) ウ：講演会の感想や学校教育自己評価の「将来の進路や生き方について考える機会がある」を(H27年度74%)75%以上にする。 (3) エ：在学中アルバイト体験率を(H27年度77.4%)80%以上にする。 (4) オ：、学校斡旋就職希望生徒の就職内定率(H27年度100%)100%継続。 カ：進路未定卒業生徒率(H27年度10%)10%以下にする。	ア：「基本的な生活習慣の確立の満足度」は、74.7%目標値を達成。日ごろからの指導の成果と考える。(◎) イ：「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」は39.4%と低い水準である。講義形式の授業から対話式授業への移行期である。なお一層のアクティブ・ラーニング等を用いた授業展開を推進する。(△) ウ：「将来の進路や生き方について考える機会がある。」は79.4%であり、将来について考えさせる時間の充実に一層努める。(◎) エ：アルバイト体験率は78.0%でありほぼ目標値を達成しているが、アルバイト職種についても指導が必要かと考える。(△) オ：学校斡旋就職希望生徒の就職内定率100%継続。(○) カ：進路未定卒業生徒率13.3%(△)
② 基礎学力の定着と向上	(1) 基礎学力の向上 (2) 進級・卒業率の向上	(1) ア：わかる授業を実践するため、ICT機器を利用した授業展開を増やす。 イ：数学や国語の個に応じた反復指導を、徹底したモジュール授業で1学年を中心に行う。また、不登校生徒等にも拡大する。 (2) ウ：生徒本人や保護者との連携を密にし、出席率の向上を図る。 エ：卒業率・進級率を前年度比5パーセント以上向上させる。	(1) ア：学校教育自己診断の授業満足度を(H27年度69%)70%以上にする。 イ：モジュール授業の個別学習教材の作成と受講人数を(H27年度9人)10人以上とする。 (2) ウ：担任を中心とした教職員の家庭訪問回数。 エ：卒業率・進級率(H27年度50%)55パーセントの達成。	ア：授業満足度は66.0%と昨年を下回った。ICT教育の推進等、生徒がわかりやすい、参加しやすい授業展開の推進。(△) イ：受講人数は3人であった。(△) ウ：年間を通じて88回(◎) エ：卒業率・進級率58.9%(◎)
③ 自尊感情の向上	(1) 情操教育の推進 (2) 学校生活の充実と活性化	(1) ア：感受性向上を図るため、図書に親しむ環境として図書館利用や書籍等の活用を進める。(始業前の図書館利用や、職員室内の書籍の貸し出しの増加をめざす) (2) イ：生徒会活動・部活動や校内清掃活動を活発化させ、自校を愛する心の育成を図る。 ウ：HR活動を生徒指導の軸にできるような取組みの充実を図る。	(1) ア：図書館利用者数を(H27年度0人)年間10人以上、書籍貸出数を20冊を目標とする。 (2) イ：大阪府立実業高等学校定時制通信制総合体育大会への3種目出場と3位以上の成績。 ウ：学校教育自己診断の文化祭・体育祭の満足度を(H27年度71%)70%以上にする。	ア：図書館利用人数20名 書籍貸出冊数95冊。目標値を上回ったが、読書好きの生徒の入学と、担当教員の指導の成果である。全体への広がり課題。(○) イ：総合体育大会へは2種目出場。2種目とも日程変更から棄権した。(○) ウ：文化祭66.7% 体育祭67.0%であった。目標は達成には少し及ばなかったものの、地域の子どもの参加や生徒の笑顔が見えた。(△)
④ 生徒支援と校内安全体制の確立	(1) 生徒支援委員会の活性化 (2) 「安全で安心な学校づくり推進事業」の取り組みを進め、危機管理委員会でのチェックの充実	(1) ア：教職員全員で生徒情報を把握し、定期的開催する生徒支援委員会において、教職員間での情報共有を図る。 イ：生徒支援委員会で取り上げた生徒の支援体制を充実させ、必要な場合は関係諸機関と連携を行う。 (2) ウ：「安全で安心な学校づくり推進事業」の研修成果を活用し、教育課題に対する教職員研修の継続実施とOJTによる教職員の育成を図る。 エ：危機管理委員会を組織し、生徒が安心して生活を送れるよう、薬物やいじめ・暴力等の事前対策・チェックを行う。	(1) ア：1年個人面談の実施と高校生活支援カードへの記入充実具合の継続。 イ：生徒支援委員会の開催回数を(H27年度9回)5回以上開催し、要対協議会への参加を(H27年度2回)3回以上とする。 (2) ウ：「安全で安心な学校づくり推進事業」への研修参加回数(H27年度5回)及び校内研修実施回数を(H27年度2回)前年度回数以上とする。 エ：危機管理委員会開催回数を(H27年度4回)5回以上とする。	ア：面談において情報収集するとともに、生活支援カードに集約することにより、個別指導等に役立っている。(○) イ：生徒支援委員会は毎月1回開催した。(8月を除く)SCの学校訪問日を開催日として共通理解を図った。また要対協議の会議は大正区、西成区と3回参加。(◎) ウ：研修参加回数は8回、研修実施回数は2回と昨年度同数であった。(○) エ：危機管理委員会の開催はなかった。ただし、生徒に対する薬物指導を2回実施するとともに、警察官による、少年犯罪についての講演も行った。委員会を開催する案件はなかった。(○)